

2025 年度 太陽の家地域連携推進会議 議事録

別府第 1 ワークショップ

開催日時：2025 年 9 月 24 日（水） 13:30～15:45

場所：太陽の家 あせびホール

※第 2 ワークショップ 第 3 ワークショップ 障害者支援施設 ゆたか 合同で開催

出席者：

地域連携推進員（地域の関係者） 1 名（亀川地区児童民生委員）
（利用者家族） 1 名（別府第 1 ワークショップ）
（利用者代表） 1 名（別府第 1 ワークショップ）

太陽の家 恒松 克巳（別府本部長） ワークショップ管理者
得能 大樹（別府第 1 ワークショップ サービス管理責任者）
服部 直充（大分広域本部長）
後藤 博史（就労支援 2 課 課長）
清水 将嗣（就労支援 3 課 課長）

進行：清水 将嗣 （就労支援 3 課 課長）

1. 管理者（別府本部長）挨拶

別府本部長より開会のあいさつが行われた。

2. 出席者の紹介（清水）

進行担当より、地域連携推進員と太陽の家職員の紹介が行われた。

3. 地域連携推進会議の目的説明 （別府本部長 ワークショップ管理者）

<本会議の目的について>

他県ではグループホームの不正受給など、グループホームや入所施設で不適切な運営が問題になった事例が見られています。このような状況の中、厚生労働省の方針で「地域連携推進会議」の実施が今年度より義務化されました。「地域に開かれた施設」を目指して会議を開催します。

会議の中で施設見学の時間を設定しています。ぜひ利用者や職員の支援の様子を見て下さ

い。見学中に利用者に話しかけても構いません。ただし個人情報の取り扱いだけは注意して下さい。（承諾書に同意済み）

4. 各施設運営やサービス内容について（別府本部長 ワークショップ管理者）

＜太陽の家各施設のサービスについて＞

大分県内・県外の法人各施設の紹介

＜障害者支援施設について＞

日中と夜間のサービスを合わせて提供する施設を「障害者支援施設」と言います。

＜別府市内の施設について説明＞

- ・生活介護について。（障害者支援施設ゆたか）
- ・就労継続支援B型について。（別府第1～4 ワークショップ）
- ・施設入所支援について。（別府第1～3 ワークショップ）
- ・就労継続支援A型について。（別府第1～2 ワークセンター）
- ・各施設の定員・現員について。

＜質疑応答＞

- ・特になし。

5. 施設見学（14:00～15:05）（後藤就労2課長）

地域連携推進員（施設利用者を除く）を施設見学に案内した。

- ・就労継続支援B型作業所（電機科・機材料）
- ・eスポーツ（eバレー）
- ・ワークショップ施設入所支援
- ・障害者支援施設ゆたか

＜地域連携推進員からの質問・意見等＞

（後藤）

- ・電機科を案内

金具とソケットを見ていただき、制御部品の組立を行っていることを説明する。

検査員が目視確認を行っていますが、検査員だけに頼るのではなく、センサーやカメラでも確認し不良品を流さないようにします。

（ご家族様より）

金具の挿入や検査作業と聞いていましたが、実際に作業を見て理解できました。

（後藤）

言葉では伝わらないことも、各自が行っている作業内容、作業環境を実際に見ていただく

ことで、理解していただけたと思います。

(ご家族様より)

太陽の家は工賃が高いですね。

(後藤)

品質や納期など厳しい要求があることから単価の高い製品を受託していることもありますが、短時間就労で工賃が高い施設もあることから時間単価では高いと言えなくなっています。

(後藤)

・機材科案内

8月より受託したシールラインを説明する。

モノづくりではなく材料をピッキングし梱包する新たな作業で今後、作業改善や環境整備がまだまだ必要です。

ウォッシャーチューブとハウジングを説明する。どちらの工程も利用者の方が検査員資格を取得し最終検査を行い出荷しています。

(後藤)

・eバーリー案内

(曾川)

eスポーツは年齢や障がい関係なく対戦ができます。コミュニケーションやリハビリとしてのツールとしても使用できます。

納涼大会やイベントの時に近隣住民や外部の方も来て体験して頂いています。

<地域連携推進員からの質問・意見等>

(休憩) 15:05～15:10

6. 施設・地域との連携について

<地域からの報告(行事等)> (推進員より)

- ・現在「北部中学校」「亀川小学校」で毎月1回程度、あいさつ運動を行っています。
- ・溝部学園では、年2回交通安全運動等実施しています。
- ・地域に太陽の家で働く障がい者や、退職した方が多く住んでいるので、民生委員が毎月1回訪問活動を行っています。
- ・車いすでグラウンドゴルフをするグループがあります。毎月2回程度内竈グラウンドで練習をしており、今度一般のグループと交流試合を行う予定です。
- ・社協主催の亀川芸能文化祭が10/19に行われます。各町の芸達者が集まって披露する場で、あすなろ館で開催されます。70歳以上は招待され、あすなろ館までのタクシー代が補助されます。障がいのある方も70歳以上は全員招待されています。

<地域からの苦情など>（推進員より）

特に聞いた事はありません。

・苦情について（服部大分広域本部長より）

7/19 開催の納涼大会で、音響がうるさいと地域住民から苦情の電話がありました。

地域の方には事前に説明を行っていました。

推進員より、「納涼大会に関して、私の周囲で苦情を言う人はいなかったです。」と補足ありました。

<障がいのある方への支援方法がわからないなど>（推進員より）

災害・危機管理になるが津波発生時に誰が車いす等、移動困難な方を避難誘導するかが問題です。別府市では、地域で暮らす障がいのある方の近隣住民に協力依頼をしています。

恒松本部長より

別府市は全国でも珍しく、要援護者の個別避難計画を作成しています。

服部本部長より

太陽の家本館・別館は津波避難ビルの指定を受けています。毎年避難訓練等行い、スムーズに避難される方の受け入れが出来るよう準備をしています。

他の推進員から特に発言は無かった。

7. 利用者の権利擁護について 就労継続支援 B 型の報告（得能）

<虐待防止・身体拘束の状況報告>

B 型 虐待と認定された件数は 0 件です。身体拘束ありません。

虐待防止のため、職員研修を年 1 回以上実施。新規雇用者研修を実施、入職後間もない職員に対しても、虐待防止研修を行っています。

<ヒヤリ・ハット報告>

B 型 現在 B 型の利用者に支援の中で、ヒヤリ・ハットの集計は行っていません。必要性の検討を現在行っています。

<満足度調査などの利用者からの意見報告>

B 型 毎年 1 回、利用者全員を対象に満足度調査を実施しています。例年 9 割程度の方が

ら回答を頂いています。調査票の項目は「施設内の設備」、「支援サービス」、「職員の対応」、「身体拘束・虐待」、「地域移行について」です。

「施設内の段差が危険である」「トイレが汚れている」「作業中周りの人がうるさい」等ご意見いただき、改善に向けて取り組んでいます。

昨年から「地域移行について」聞く項目が増えました。これは国の方針で、施設入所している方に対して必ず地域移行の意思を確認する事が、来年度より義務化される事によるものです。現在は来年度に向けて準備段階で、満足度調査での意識調査や聞き取り項目の統一などに取り組んでいます。

最後に、太陽の家からの要望により押しボタン信号の段差が解消され、転倒のリスクが下がった事例を報告しました。

8. 地域連携推進員からの意見

推進員より

「地域の方で、太陽の家関係の企業を退職後、太陽の家の職員が就職支援をしてくれていたが途中で止まっている事例がある。ハローワークには連れて行って欲しかったみたいですが、その後は何も支援をしてくれていないようです。就職が無理なら無理と言ってもらいたいし、最後まで責任持って支援して欲しいと思います。本人はA型を希望しているようです。」

恒松本部長より

「私たちは福祉サービスの提供が終わった時に、次の行き先までを決める支援をしなければなりません。今回の件はどこの部署が関わっているか、はっきり分かりませんが関係する職員に周知します。」

他の推進員から意見は無かった。

9. 大分広域本部長あいさつ

会議に参加頂きありがとうございます。施設見学をして多少は施設の事を知って頂けたのではないかと思います。

今後も何か疑問点がありましたら、担当職員にお気軽にお尋ねください。

閉会（15:45）